



昨年度から始まった「令和のとやま型教育推進事業」では、市町村教育委員会との連携のもと、実践研究を推進し、その成果の普及を図ることで、県全体の教育の質の向上を目指しています。

市町村教育委員会が実態に応じた研究テーマを選択し、市町村全体、または推進校を指定して実践研究に取り組んでいただいています。

R5年度 令和のとやま型教育推進事業

事業のねらい

- 令和の時代に求められる教育理念の具現化と学習指導要領の確実な実施に資する。
- 問題発見・解決能力等、変化の激しい予測困難な時代を生きるために必要な児童生徒の資質・能力の育成を図る。

令和の時代に求められる教育理念とは・・・

全ての子どもたちの可能性を引き出す、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現

令和5年度は、初年度を取組を踏まえ、次の3点を改善しています。

- ① **問題発見・解決能力の育成**を目指す
「とやま型学力向上プログラム(Ⅲ期)」と一体的に推進
- ② 市町村(学校)が実態に応じて選択する**実践研究テーマ**を整理
- ③ 「**令和のとやま型教育推進研修会**」による事業の充実
※年4回の研修会を開催し、講演会や報告会の実施とともに、情報交換等をする機会を設け、市町村の実践研究の充実を図ります。

第1回 令和のとやま型教育推進事業研修会 (5月24日)

【1部】情報交換

市町村や推進校の担当者等、約40名が参集し、事業説明を聞いた後、今年度の取組予定について情報交換を行いました。



参加者は、問題発見・解決能力の育成を目指す授業改善、外部講師の招聘、小・中学校が連携して行う研修会等、今後の実践研究の充実に向け、熱心に情報交換をしておられました。

R4 報告会資料「成果と課題」を「富山県教員応援サイト」に掲載中 <http://www.kyoinouen.tym.ed.jp/reiwatoyama>
パスワードは「reiwa」です。(パスワードの取り扱いにご注意ください。)

実践研究テーマ

- ①問題発見・解決型学習
- ②教科横断的な学習 (STEAM 教育)
- ③グローバル時代に対応する英語教育
- ④基礎的読解力(読み解く力)・数学的思考力・情報活用能力の育成
- ⑤キャリア教育
- ⑥ICT 教育
- ⑦インクルーシブ教育
- ⑧ふるさと教育
- ⑨幼小接続の推進
- ⑩自律的な児童生徒の育成
- ⑪その他

市町村や学校の**実態に合わせて実践テーマを選択**



学校や市町村によって、いろいろなアプローチの仕方があると思います。「なぜ、**わが校・市町村**は、このテーマに取り組むのか」現状にどんな問題意識をもち、それに対してどのようにしていくかを明らかにして、重点を置いて取り組むとよいでしょう。

市町村や推進校が取り組むテーマは多様ですが、目指す方向は同じです。**事業のねらい**に向かって実践研究に取り組みましょう。

第1回 令和のとやま型教育推進事業研修会 (5月24日) 【2部】講演

参集・オンラインのハイブリッドで130人以上の参加のもと、天笠先生の講演を聞きました。



● 演題

変化の時代を拓く「令和のとやま型教育」へのメッセージ
—わが校のマネジメントをどうする—

● 講師

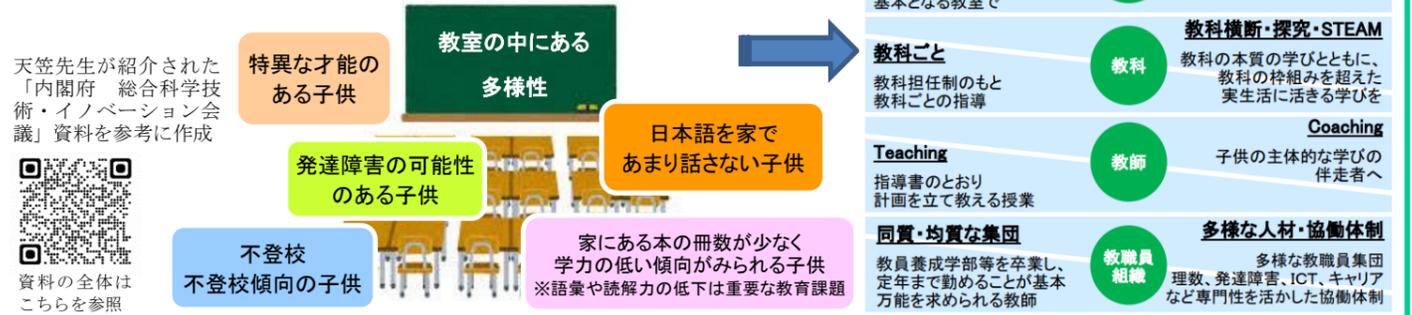
千葉大学教育学部
名誉教授 天笠 茂 先生

教室における子供たちの多様化

今、教室には、多様な子供たちがいます。子供の特性を重視し、学びの「時間」と「空間」の多様化が必要です。

<求められる教師の姿>

- ・「伝える・教える」から「寄り添う」学びの伴走者へ。
- ・平均点ではなく、一人一人の成長で捉える学力観へ。



「個別最適な学び」と「協働的な学び」

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を**一体的に充実していく**ことが大切です。



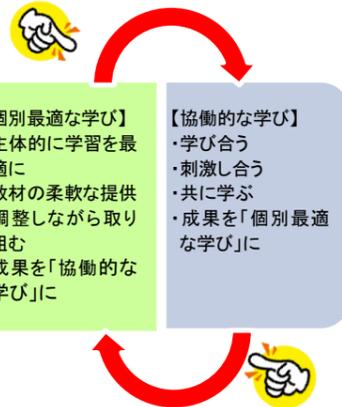
個→協働 「一人で考えて分かったことを友達に聞いてもらいたい」「友達から意見をもらいたい」

協働→個 「仲間からの意見を受けて、もう一度考え直したい」という往還を、授業の中でどんどん実現してください。「協働的な学び」についての実践(ノウハウ)を「個別最適な学び」との関係で捉え直していきましょう。

自らの学習を把握し、主体的に学習を最適にしていける学習者を育てるために、授業をバージョンアップしていきましょう。

○授業の設計・・・1時間→単元として ○空間の設計・・・教室→学校全体、地域・社会

矢印の部分(往還)が大切!



天笠先生の講演資料を基に作成

戦略をもって学校を変えていこう

個別最適な学びを進めるためには、ICT等の「モノ」を有効に活用できるように「時間」や「空間」を工夫するなど、カリキュラム・マネジメントの充実・強化を図る必要があります。個々の教師の授業力の向上に留まらず、前年度の成果と課題を教育課程に位置付けていくなど、学校が「戦略的思考」をもって変わっていくことが重要です。

